



## なにもかも手にいれた生研 — これからどうする —

東京都立科学技術大学学長  
(第17代所長・元第3部教授)

原 高 文 雄



生産技術研究所の駒場キャンパスへの移転がはじまった。私が生研所長時代、もっとも時間とエネルギーを使ったことである。まことにおめでとうございませう。現在、生研の資産として考えられるものを列挙してみよう。

- (1) 優れた研究者集団
- (2) 研究の自由
- (3) 誇るべき伝統と国際的評価
- (4) 都心における至便な環境立地
- (5) 最新の施設・設備
- (6) 豊富な研究費 (一時的かもしれないが)
- (7) 適正な規模

およそ研究所として考えられるすべてを手にいれたといっても過言ではない。このような立場を築きあげた生研の皆様がたの見識と努力に心より敬意を表するとともに、生研という最先端の研究所を社会の重要な構成要素として認知している納税者の意識の高さに謝意を表したい。生研が、組織として今後人類社会の将来に多大の貢献をされることは信じて疑わない。また、生研が社会からこのような研究所があることを誇りに思うとの評価をうけるであろうことも疑わない。さらに、個々の構成員が、研究者としてあるいは良き市民として社会から尊敬をうける存在になることも確信している。

私自身の研究者としての目標は、つぎのとおりである。

研究者個人個人が、人類が過去に到達できなかった最高の文化まで、死ぬ前に行きつくことである

この目標を共有していただけるかたがおられれば幸いである。